

論文

- 教養教育スポーツ実技授業における効果
—運動行動変容ステージと運動有能感からの検討—
益川満治, 渡邊陵由, 木村 郷 1
- 大学体育におけるバスケットボールゲームを中心とした授業の身体活動量
渡邊陵由, 益川満治, 佐藤絢音 9
- オンライン授業と対面授業における大学生のスピーチパフォーマンスの比較
—複雑さ・正確さ・流暢さの観点から— 佐藤 剛, 佐藤ゆき 17
- 教養教育英語科目における英語多読図書の読書による効果 立田夏子 27

研究ノート

- 「やさしい日本語を話そう」から相互言語文化学習デザインへ
国際共修科目のデザインに関する一考察 小山宣子, 長尾和子 39

実践報告

- 大学一年次生を対象とした教養教育英語科目における
学習管理システムを用いたピアレビューを振り返って ソロモン ジョシュア リー 55
- 協同を取り入れたリスニング授業の実践 片桐早苗 65
- 弘前大学HIROSAKIはやぶさカレッジ8期生の短期留学生との
交流プログラムへの参加による学び
—Hirosaki University Summer Program 2021
(短期オンライン日本留学プログラム)内日本語教材作成への参加と
タンデムラーニングを通してはやぶさは何を学んだか— 高橋千代枝 73

書 評

- Stanislas Dehaene, How We Learn:
Why Brains Learn Better Than Any Machine...for Now.
Viking, 2020, 319 pp., ISBN: 978-0-525-55988-7. Hardback \$28.00.
バードセール ブライアン ジョン 83

事業報告

- 弘前大学イングリッシュ・ラウンジの高大接続の取り組み:
オンラインで広がる新しい社会貢献 ヤグノ ライク, 多田恵実
ソロモン ジョシュア リー, 片桐早苗, バードセール ブライアン ジョン 91

目 次

論 文

- 1) 教養教育スポーツ実技授業における効果
—運動行動変容ステージと運動有能感からの検討—
…………… 益川満治, 渡邊陵由, 木村 郷 1
- 2) 大学体育におけるバスケットボールゲームを中心とした授業の身体活動量
…………… 渡邊陵由, 益川満治, 佐藤 絢音 9
- 3) Comparing Between University Students' Presentation Performances
in an Online and Face-to-Face Classroom Environment From the Perspectives
of Complexity, Accuracy, and Fluency
…………… Tsuyoshi Sato, Yuki Sato 17
- 4) 教養教育英語科目における英語多読図書の読書による効果
…………… 立田 夏子 27

研究ノート

- 1) 「やさしい日本語を話そう」から相互言語文化学習デザインへ
国際共修科目のデザインに関する一考察
…………… 小山 宣子, 長尾 和子 39

実践報告

- 1) Reflecting on LMS-Integrated Peer Review
in First-Year University EFL Courses
…………… Joshua Lee Solomon 55
- 2) 協同を取り入れたリスニング授業の実践
…………… 片桐 早苗 65
- 3) 弘前大学HIROSAKIはやぶさカレッジ8期生の短期留学生との
交流プログラムへの参加による学び
—Hirosaki University Summer Program 2021
(短期オンライン日本留学プログラム) 内日本語教材作成への参加と
タンデムラーニングを通してはやぶさ生は何を学んだか—
…………… 高橋 千代枝 73

書 評

- 1) Stanislas Dehaene, *How We Learn:
Why Brains Learn Better Than Any Machine...for Now.*
Viking, 2020, 319 pp., ISBN: 978-0-525-55988-7. Hardback \$28.00.
…………… Brian J. Birdsell 83

事業報告

1) 弘前大学イングリッシュ・ラウンジの高大接続の取り組み：

オンラインで広がる新しい社会貢献

…………… ヤグノ・ライク, 多田 恵実, ソロモン・ジョシュア・リー

片桐 早苗, バードセール・ブライアン・ジョン 91

「弘前大学教養教育開発実践ジャーナル」投稿要項

平成28年11月22日

教養教育開発実践センター編集委員会承認

改正：平成30年7月19日

改正：令和3年8月30日

1. 「教養教育開発実践ジャーナル」は、高等教育に関する実践的・学術的研究を促進し、「教養教育」の改善に資するために、その実践的・学術的研究の成果を公表することを目的として刊行する。
2. 発行は原則として年1回、3月末とする。
3. 原稿の締切は、年度毎に編集委員会が定める。
4. 「教養教育開発実践ジャーナル」に掲載する原稿は、次に掲げる(1)～(6)に属するものとし、掲載の可否は編集委員会が判断する。ただし、(1)論文、(2)研究ノートについては査読審査を経たものに限る。なお、(1)論文、(2)研究ノートとして掲載ができないと編集委員会が判断した場合、他の区分として再投稿することを可能とする。
 - (1) 論文：教養教育に関する論文
 - (2) 研究ノート：教養教育に関する研究ノート
 - (3) 実践報告：教養教育に関する実践報告
 - (4) FD報告：教養教育に関するFDの報告
 - (5) 書評：教養教育に関する著書の書評
 - (6) その他
5. 論文等の原稿は、和文（横書・縦書）又は英文を原則とする。
6. 論文等の原稿は、和文20,000字以内、英文6,000語以内を目安とする。
7. 論文等は複数編投稿しても良いものとするが、それぞれの論文等が独立し完結したものでなければならない。
8. 原稿の作成に際しては所定の執筆要項に従うものとする。
9. 校正は原則として著者が行い、2校までとする。
10. 別刷を希望する場合、経費は著者負担とする。
11. 「教養教育開発実践ジャーナル」に掲載された論文等の著作権及び電子化の権利については、以下のとおりとする。
 - (1) 掲載された論文等の著作権は、教育推進機構教養教育開発実践センター（編集委員会）に帰属する。
 - (2) 当該論文等について、執筆者本人が学術教育目的等で使用する場合（執筆者自身による著作編集物への転載、掲載、ネット配信、外国語への翻訳、配布等）、教育推進機構教養教育開発実践センター（編集委員会）は無条件で許諾する。
 - (3) 掲載された論文等は電子化し、原則としてHP、弘前大学リポジトリ等で公開する。
12. 投稿原稿は他誌に未発表のものに限る。

附 則

この要項は、平成28年11月22日から施行する。

附 則（平成29年8月4日）

この要項は、平成29年8月4日から実施する。

附 則（平成30年7月19日）

この要項は、平成30年7月19日から実施する。

附 則（令和3年8月30日）

この要項は、令和3年8月30日から実施する。

「弘前大学教養教育開発実践ジャーナル」執筆要項

平成28年11月22日

教養教育開発実践センター編集委員会承認

改正：平成30年7月19日

改正：令和2年8月27日

改正：令和3年10月6日

1. 原稿は原則として電子ファイルで作成し、メール等で電子ファイルを担当者（執筆申し込みの際に送付先を連絡します）にお送り下さい。また、併せて、電子ファイルを印刷したものに後述の指定事項を記入した紙原稿を添えて下さい。なお、お送りいただく電子ファイルは、wordファイルとそれを変換したpdfファイルの2種とします。
2. 提出原稿は完成原稿のみ受け付けいたします。図表（写真含む）は原稿に埋め込み、実際に印刷して正しく描写されているか確認してください。図表は白黒の刷り上がりになります。
3. 原稿の書式は、次のとおりとします。
 - (1) 原則として、原稿（「投稿要項に記載の以下の4種別（1）論文、（2）研究ノート、（3）実践報告、（4）FD報告」は別添のテンプレートの形式に沿った形で提出していただきます。分野的にテンプレートの使用が適さない場合、投稿前に編集委員会の許諾を得た上で執筆にあたってください。
 - (2) 和文原稿

横書きの場合はA4判・1段組、39字×42行を標準とし、使用するフォントはMS明朝、フォントサイズは10.5ポイントを原則とします。ただし、タイトル等のフォントサイズは別添のテンプレートに合わせてください。
 - (3) 英文原稿

A4判・1段組、シングルスペースで39字×42行を標準とし、フォントはTimes New Roman、フォントサイズは12ポイントを原則とします。（2）同様、タイトル等のフォントサイズについてはテンプレートをご参照ください。
 - (4) 和文・英文原稿共通
 - 原稿の章立て、段落のフォーマットは（1）に示したとおり、原則として別添のテンプレートに準じるものとします。
 - 図表の提示方法は *Publication manual of the American Psychological Association seventh edition* (American Psychological Association: APA, 2020) の形式に準じた形式としますが、執筆内容や分野の特性に応じて適宜変更しても良いこととします。
 - 原稿の余白は上下左右25mmとします。
 - 原稿の本文は両端揃え（justification）とし、例えば引用文献の箇所にURLを示した際に間延びして見えるようであれば、適宜改行して調整してください。
 - 「投稿要項」の「(5) 書評」や「(6) その他」についてはテンプレートを使用せず、自由な書式で記入いただいて構いません。
4. 原稿は、論文タイトル、氏名、所属、Abstract、Keywords、本文、引用文献、付録の順で記載して下さい。ただし、分野の特性に応じ、適宜本文中に注釈を乗せたり、原稿の末尾（引用文献の手前）に注釈や謝辞を記載したりしても良いものとします。
5. 論文タイトル、著者名及び所属は和文原稿・英文原稿ともに和英両語で記載して下さい。
6. 和文・英文原稿ともに本文の前に要旨（Abstract）を英語200語程度で記載し、キーワードをつけてください。キーワードは3つ～5つまでとします。また、2行以上にならないようにしてください。
7. 母語でない言語で原稿を執筆する場合には、母語話者によるチェックを受けて下さい。
8. 引用文献は本文末尾に一括して記載して下さい。なお、引用文献の書き方については、別添のテン

プレートに記載された例を参考にしてください。なお、引用文献に和文・英文のものが混在する場合、先に英文文献をアルファベット順に記載し、その後に和文文献をアルファベット順に記載してください。

9. 原稿の提出に際しては、所定の「投稿申込用紙」に必要事項を記載のうえ、添付して下さい。

附 則

この要項は、平成28年11月22日から実施する。

附 則

この要項は、平成30年7月19日から実施する。

附 則

この要項は、令和3年10月6日から実施する。

教養教育開発実践センター編集委員会

| | |
|-------|--|
| 編集委員長 | 松崎正敏（農学生命科学部） |
| 編集委員 | 今田匡彦（教育学部） |
| | 今泉忠淳（大学院医学研究科） |
| | 城田農（大学院理工学研究科） |
| | 多田恵実（教育推進機構 教養教育開発実践センター） |
| | ソロモン ジョシュア リー （教育推進機構 教養教育開発実践センター） |
| | 横内裕一郎（教育推進機構 教養教育開発実践センター） |

編集後記

「弘前大学教養教育開発実践ジャーナル」第6号が刊行の運びとなりました。執筆者の皆様は勿論、査読などにご協力頂いた皆様、編集作業に関わった事務職員の皆様、編集委員各位のご尽力に感謝いたします。

ウィズ・コロナ2年目となり、インターネットを通じた遠隔授業“メディア授業”に慣れてきた一方で、対面でのコミュニケーションの減少に不安や物足りなさを感じることが多かったのではないのでしょうか。今号においても、オンライン授業に関わる報文をご寄稿いただきました。また、スポーツや語学スキルなど技能系の学びに関する報文が多く寄せられました。教養教育科目が担う学びの広さを反映したものと考えられます。教養教育は決して不要不急の導入科目などではなく、大学に入ったら必ず真っ先に学ぶべき必要火急な授業科目にあふれていることを、本ジャーナルの多彩な報文からお伝えすることができればと思います。

編集委員長を仰せつかって2年目、本誌の発展に益することもなく反省しきりでございますが、どうか、たくさんの方々にお読みいただき、ご意見ご感想をお寄せいただけましたら幸いに存じます。今後とも、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

（松崎）

『弘前大学教養教育開発実践ジャーナル』第6号

| | |
|-------|---|
| 発行人 | 弘前大学 教育推進機構 教養教育開発実践センター |
| 編集 | 教養教育開発実践センター編集委員会 |
| 連絡先 | 〒036-8560 青森県弘前市文京町1 学務部教務課教務グループ 教養教育担当 電話：0172-39-3104 E-mail：jm3104@hirosaki-u.ac.jp |
| 発行所 | 弘前大学出版会 FUP 〒036-8560 青森県弘前市文京町1 電話：0172-39-3168 FAX：0172-39-3171 |
| 発行年月日 | 2022年3月31日（非売品） |
| 印刷・製本 | やまと印刷株式会社 |

ARTICLES

- Effects in Liberal Arts Education Sports Practical Lessons:
Examination from Stage of Change for Exercise Behavior and Physical Competence
Mitsuharu MASUKAWA, Takayuki WATANABE and Go KIMURA 1
- The Amount of Physical Activity in the University Physical Education Class:
Focusing Basketball Games
Takayuki WATANABE, Mitsuharu MASUKAWA and Ayane SATOU 9
- Comparing Between University Students' Presentation Performances in an Online
and Face-to-Face Classroom Environment From the Perspectives of Complexity,
Accuracy, and Fluency
Tsuyoshi SATO and Yuki SATO 17
- The Effects of Reading Graded Readers in the Liberal Arts English Courses
Natsuko TATSUTA 27

RESEARCH NOTES

- From "Let's Speak Easy Japanese"
to Mutual Language Culture Learning Design
A Study on Design of International Collaborative Learning
Nobuko OYAMA and Kazuko NAGAO 39

PRACTICAL REPORTS

- Reflecting on LMS-Integrated Peer Review in First-Year University EFL Courses
Joshua Lee SOLOMON 55
- A Listening Classroom Practice Applying Cooperative Activities
Sanae KATAGIRI 65
- Educating the Hirosaki University 8th Generation Hayabusa College Students
Through Participation in an Exchange Program with International Students:
What Hayabusa Students Learned from Creating Japanese Teaching Materials
for Foreigners, Performing in Videos, and Tandem Learning Chiyoe TAKAHASHI 73

BOOK REVIEW

- Stanislas Dehaene, *How We Learn:
Why Brains Learn Better Than Any Machine...for Now.*
Viking, 2020, 319 pp., ISBN : 978-0-525-55988-7. Hardback \$28.00.
Brian J. BIRDSELL 83

OTHERS

- Connecting High School Students with College Education at Hirosaki University:
Expanding Outreach Through Online Education Reik JAGNO, Megumi TADA
Joshua Lee SOLOMON, Sanae KATAGIRI and Brian J. BIRDSELL 91
-